

## 令和7年度 アオコ情報（河川 No. 10）

9月4日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度<sup>※1</sup>は、新川がアオコレベルで最大1相当<sup>※2</sup>、備前川がアオコレベルで最大2相当、土浦沖合がアオコレベルで1相当でした。

### 新川、備前川及び土浦沖合のアオコレベル

#### <新川>

- ・ 神天橋及び新港橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度 29～48 µg/L）、新川河口沖でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度:105 µg/L）でした。

#### <備前川>

- ・ 岩田橋及び竹中橋でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度 153～219 µg/L）、備前川河口沖でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度:107 µg/L）でした。

#### <土浦沖合>

- ・ 土浦沖合①及び土浦沖合②でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度:78～101 µg/L）でした。

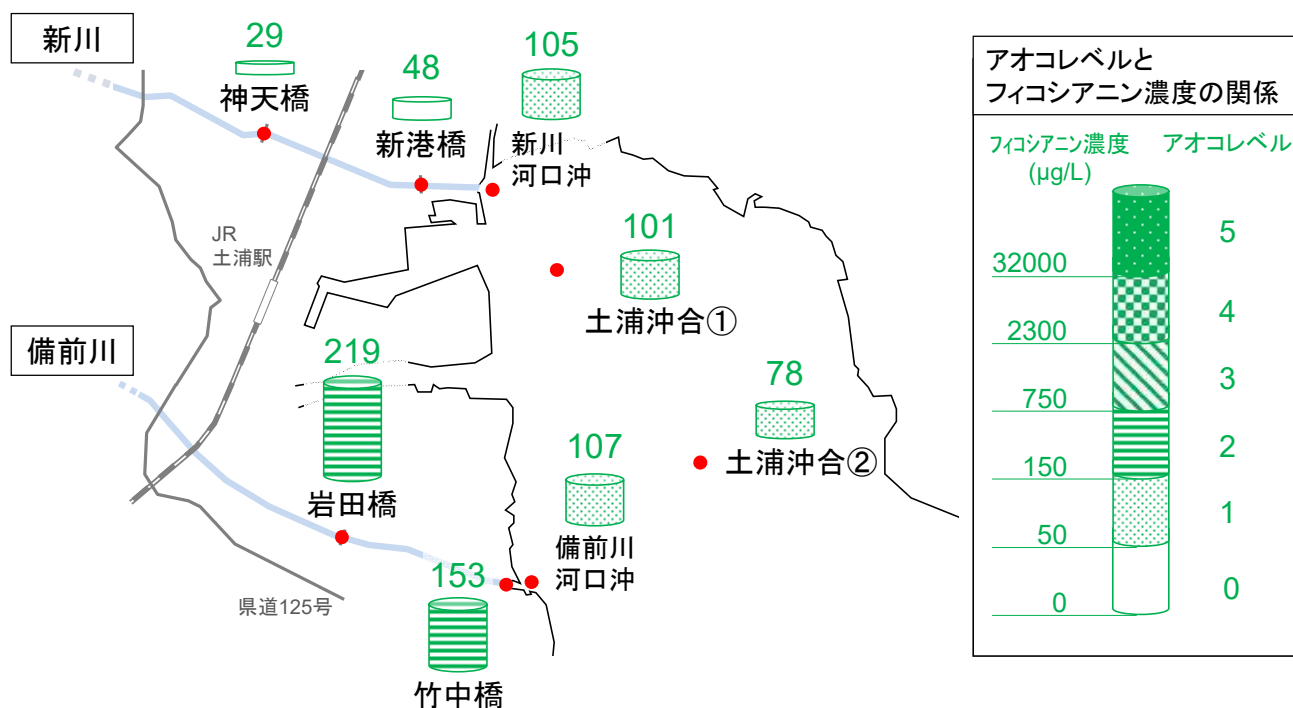


図1 フィコシアニン濃度の分布

#### ※1 フィコシアニン

アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

#### ※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP: <http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で50 µg/L程度、アオコレベル2で150 µg/L程度、アオコレベル3で750 µg/L程度、アオコレベル4で2300 µg/L程度、アオコレベル5で32000 µg/L程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

● 調査結果の詳細

表 調査結果

|                | 新 川   |       |      | 備前川   |       |      | 土浦沖合 |      |
|----------------|-------|-------|------|-------|-------|------|------|------|
|                | 神天橋   | 新港橋   | 河口沖  | 岩田橋   | 竹中橋   | 河口沖  | ①    | ②    |
| 採水時刻           | 9月4日  | 9月4日  | 9月4日 | 9月4日  | 9月4日  | 9月4日 | 9月4日 | 9月4日 |
|                | 10:35 | 10:53 | 9:52 | 11:11 | 11:27 | 9:20 | 9:45 | 9:35 |
| 水温(℃)          | 30.0  | 30.4  | 32.2 | 31.1  | 31.6  | 30.5 | 32.1 | 32.0 |
| pH             | 8.4   | 7.9   | 8.5  | 8.3   | 8.7   | 9.0  | 8.6  | 8.7  |
| EC (mS/m)      | 15.6  | 41.6  | 34.6 | 32.8  | 32.4  | 34.6 | 32.4 | 32.3 |
| 透視度 (cm)       | 25    | 40    | 23   | 16    | 21    | 20   | 28   | 23   |
| フィコシアニン (μg/L) | 29    | 48    | 105  | 219   | 153   | 107  | 101  | 78   |
| クロロフィルa (μg/L) | 81    | 63    | 74   | 147   | 105   | 71   | 58   | 53   |

● (参考) アオコレベル

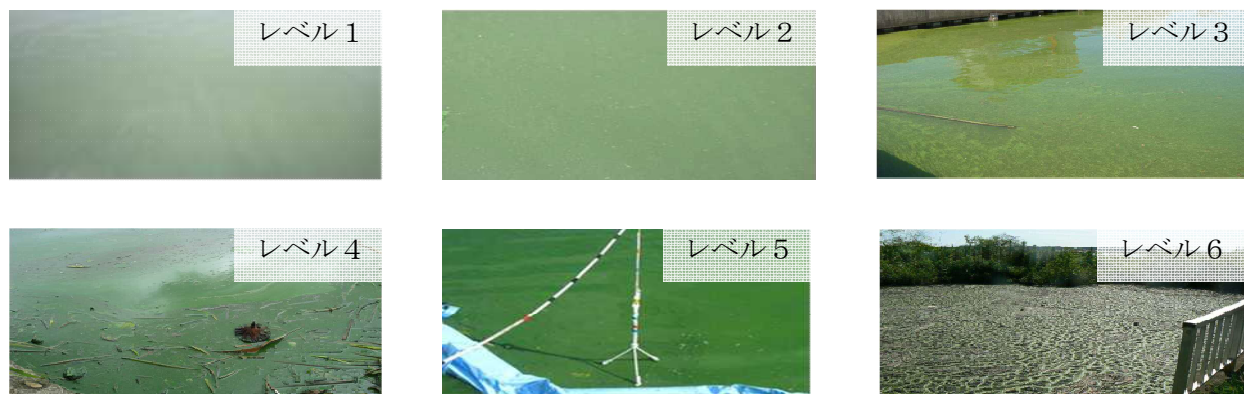


図2 アオコレベル